

(別紙)

被告製品説明書（原告主張）

第1 被告各製品

平成 30 年 1 月 22 日付訴えの変更申立書の別紙「被告製品目録」記載のとおり。

第2 外観及び名称

被告各製品の外観は以下の画像のとおりである。なお、被告各製品は複数色用意されている。

【被告各製品の外観】



(被告 HP より)

【被告各製品の各部の説明】

被告各製品の各部の位置及び名称は概ね同一であるため、以下に例として iPhone 6s の各部の名称を示す。なお、被告各製品のうち、iPhone X は、ホームボタン及び Touch ID センサーを有しておらず、前面のほぼ全体がディスプレイになっている。



(被告 HP より)

第3 被告各製品のプレス操作時の画面表示について

被告各製品のディスプレイ部は、画面を表示するディスプレイとタッチセンサーを備えたタッチパネルが一体化した構造になっており、指やスタイラスペン（タッチペン）等のオブジェクトで接触すると、その接触位置を検出できるようになっている。

さらに、被告各製品のディスプレイのバックライトには、圧力を感知する容量性センサーが組み込まれている。指等でディスプレイをプレスするたびに、この容量性センサーが、ディスプレイのカバーガラスとバックライトの間の微細な距離を測定し、指の圧力に対して反応をもたらすようになっている。ディスプレイを押す（プレスする）力の感知により基本操作を素早く簡単に実行できる機能は、「3D Touch」と呼ばれている（甲3）。

「3D Touch」機能により、例えば以下の動作が可能である（甲6）。なお、圧力によるディスプレイの歪みを容量性センサーで読み取っている構造上、被告各製品に

においては、ディスプレイへの接触（タッチ）の方が、押圧（プレス）よりも先に検出される。

- (i) 「メール」では、メールボックスのリストでメッセージを押すと、メッセージの内容を Peek（一瞥）できる。その後、上にスライドするとアクションのメニューが表示される。また、もう少し強く押し、Pop して（飛び出させて）メッセージを表示することができる。
- (ii) 「写真」では、イメージを押して Peek してから、上にスワイプすると写真を共有したり、コピーしたりできる。また、もう少し強く押し、Pop してそのイメージをフルスクリーンで表示することができる。

以下に、被告各製品をタッチ及びプレスした際の画面表示について、①iOS ホーム画面におけるアイコン、②メールアプリケーションにおけるリンク表示、③メッセージアプリケーションにおけるリンク表示、④Safari アプリケーションにおけるリンク表示、及び、⑤Safari アプリケーションにおけるお気に入りアイコンの操作時の例を用いて説明する。

1. iOS ホーム画面におけるアイコン操作時

被告各製品を起動させると、ディスプレイに iOS ホーム画面が表示される。iOS ホーム画面には、アプリを起動させるためのアイコンが複数表示されている(図 1-1)。

被告各製品の iOS のホーム画面である図 1-1 において、表示画面に表示されるアイコンの表示位置をタッチすると、図 1-2 の表示画面が表示される。

続いて、カメラアイコンの表示位置をプレスすると、プレスする力に応じて図 1-3 及び図 1-4 の表示画面が表示される。この際、プレスしたカメラアイコン以外の部分がデフォーカス状態に変化し、カメラアイコンだけが明瞭に表示された状態になる。

図 1-4 の表示画面が表示されている状態で、ディスプレイから指を離すと、図 1-4 の画面が表示されたままの状態が維持される。

図 1-5～図 1-8 は、それぞれ図 1-1 及び図 1-4 の中の上記アイコン付近の領域を拡

大したものである。

なお、図 1-5、図 1-6 及び図 9 と図 1-7 及び図 1-8 との間で枠の色が異なるのは、それぞれ背景が異なるホーム画面の一部を拡大したものである。

(以下余白)

図 1-1 接触（タッチ）前の表示画面



図 1-2 接触（タッチ）後（プレス前）の表示画面



図 1-3 プレス後の表示画面

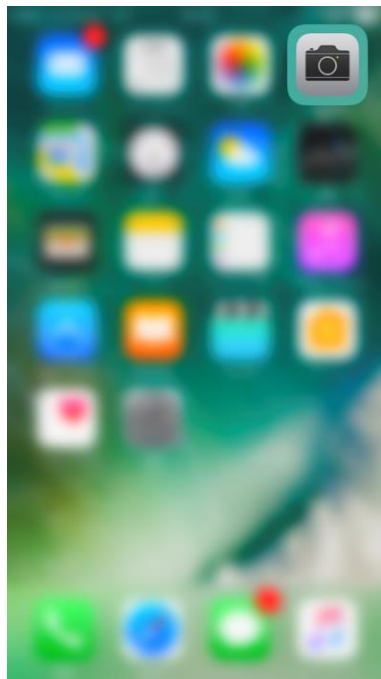


図 1-4 図 1-3より強くプレスした後の表示画面（プレスを終了しても維持される）

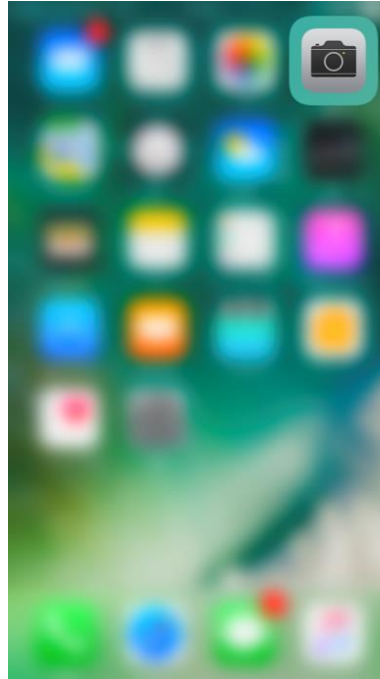


図 1-5
(図 1-1 のカメラアイコン部分の拡大)
(接触 (タッチ) 前)



図 1-6
(図 1-2 のカメラアイコン部分の拡大)
(タッチ開始直後)



図 1-7
(図 1-3 のカメラアイコン部分の拡大)
(プレス開始後)
(デフォーカス状態)

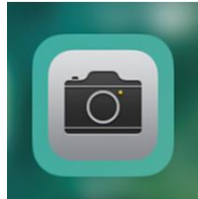
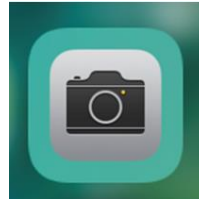


図 1-8
(図 1-4 のカメラアイコン部分の拡大) (図 1-7 より強くプレス後)
(デフォーカス状態)



2. メールアプリケーションにおけるリンク表示操作時

iOS ホーム画面でメールアプリのアイコンをタッチすると、メールアプリが起動して、図 2-1 の画面が表示される。

被告各製品の表示画面 (図 2-1) に表示される受信メール等のリスト中に表示された個々のメールの表示位置をタッチすると、図 2-2 の表示画面が表示される。

続いて、メールの表示位置をプレスすると、プレスする力に応じて、図 2-3 及び図 2-4 の表示画面が表示される。プレスしたメール以外の部分がデフォーカス状態に変化し、プレスしたメールだけが明瞭に表示された状態になる。

(以下余白)

図 2-1 接触（タッチ）前の表示画面



図 2-2 接触（タッチ）後（プレス前）の表示画面



図 2-3 プレス後の表示画面

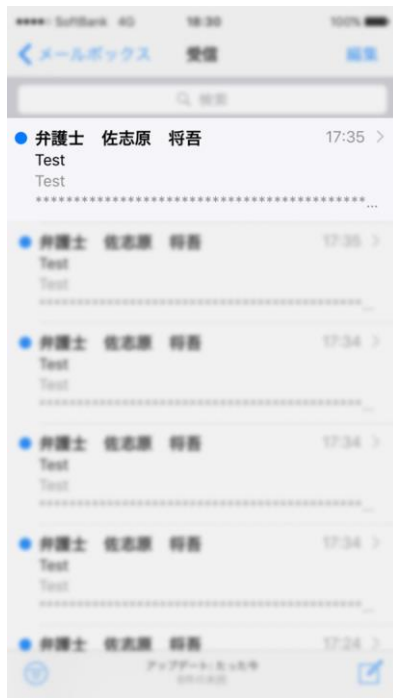
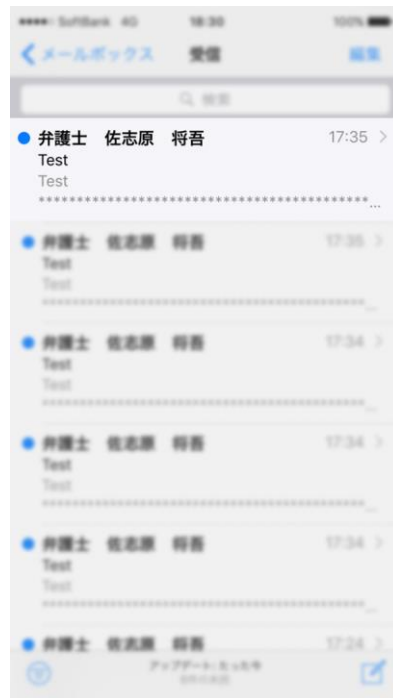


図 2-4 図 2-3 より強くプレスした後の表示画面



3. メッセージアプリケーションにおけるリンク表示操作時

iOS ホーム画面でメッセージアプリのアイコンをタッチすると、メッセージアプリが起動して、図 3-1 の画面が表示される。

被告各製品の表示画面（図 3-1）に表示されるメッセージの表示位置をタッチすると、プレスする力に応じて、図 3-3 及び図 3-4 の表示画面が表示される。

続いて、メッセージの表示位置をプレスすると、図 3-3 の表示画面が表示される。プレスしたメッセージ以外の部分がデフォーカス状態に変化し、プレスしたメッセージだけが明瞭に表示された状態になる。

(以下余白)

図 3-1 接触(タッチ)前の表示画面



図 3-2 接触(タッチ)後(プレス前)の表示画面



図 3-3 プレス後の表示画面

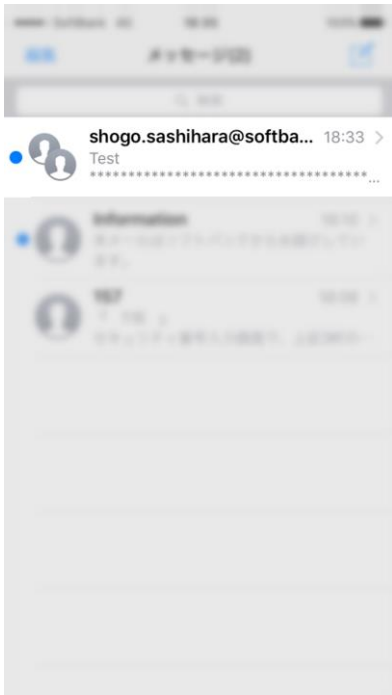
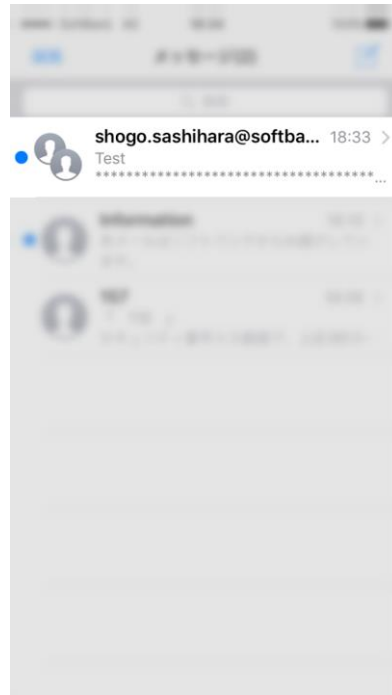


図 3-4 図 3-3 より強くプレスした後の表示画面



4. Safari アプリケーションにおけるリンク表示操作時

iOS ホーム画面で Safari アプリのアイコンをタッチすると、Safari アプリが起動して、図 4-1 の画面が表示される。

被告各製品の表示画面（図 4-1）に表示される Safari アプリケーションにおけるリンクの表示位置をタッチすると、図 4-2 の表示画面が表示される。

続いて、リンクの表示位置をプレスすると、プレスする力に応じて、図 4-3 及び図 4-4 の表示画面が表示される。プレスしたリンク以外の部分がデフォーカス状態に変化し、プレスしたリンクだけが明瞭に表示された状態になる。

（以下、余白）

図 4-1 タッチ前の表示画面



図 4-2 タッチ開始直後（プレス前）の表示画面



図 4-3 プレス後の表示画面



図 4-4 図 4-3 より強くプレスした後の表示画面



5. Safari アプリケーションにおけるお気に入りアイコン操作時

iOS ホーム画面で Safari アプリのアイコンをタッチすると、Safari アプリが起動する。

Safari アプリの画面最下行の右から 2 番目の「お気に入り」アイコン（本を開いた図）をタッチすると、図 5-1 の画面が表示され、ユーザが「お気に入り」に登録しているアイコンが表示される。

これらのお気に入りのアイコンの一つにタッチすると、図 5-2 の表示画面が表示される。図 5-2 では、「Google マップ」のアイコンにタッチしている。

続いて、「Google マップ」のアイコンをプレスすると、図 5-3 の表示画面が表示される。プレスしたアイコン以外の部分がデフォーカス状態に変化し、プレスしたアイコンだけが明瞭に表示された状態になる。

図 5-4 は、図 5-4 の状態におけるプレスされたアイコン付近の領域を拡大したものである。

(以下、余白)

図 5-1 タッチ前の表示画面

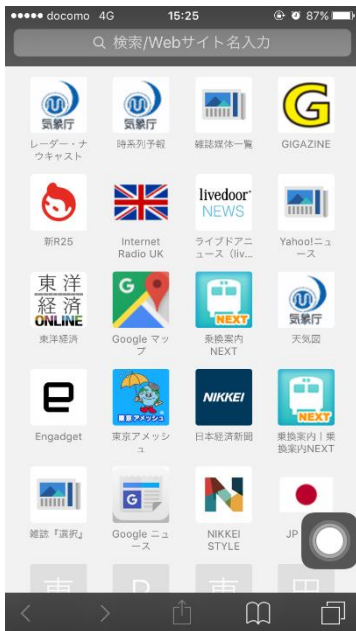


図 5-2 タッチ後（プレス前）の表示画面

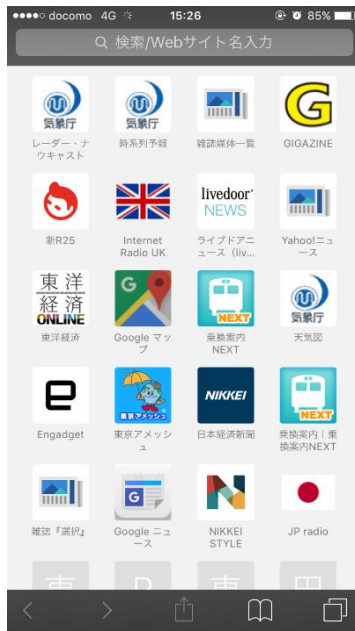


図 5-3 プレス後のデフォーカス状態の表示画面

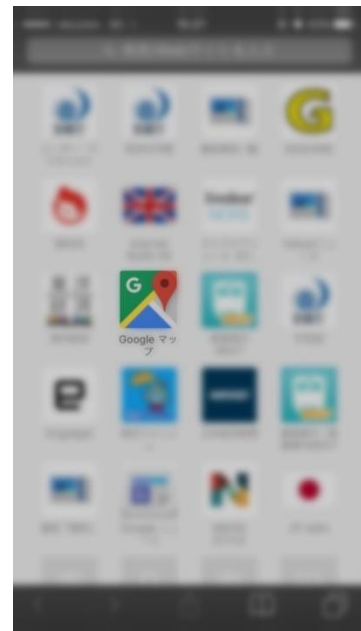


図 5-4 図 5-3 のプレスされたお気に入りアイコンの拡大表示



以上